

CLA-2000による避雷器点検方法

適応機種

NRR-2RS

避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧(素子に微小電流を流したときの電圧)の測定値で判断します。

●端子配列と結線図

本体部

ピン側の図

テストピン又はクリップにて行って下さい

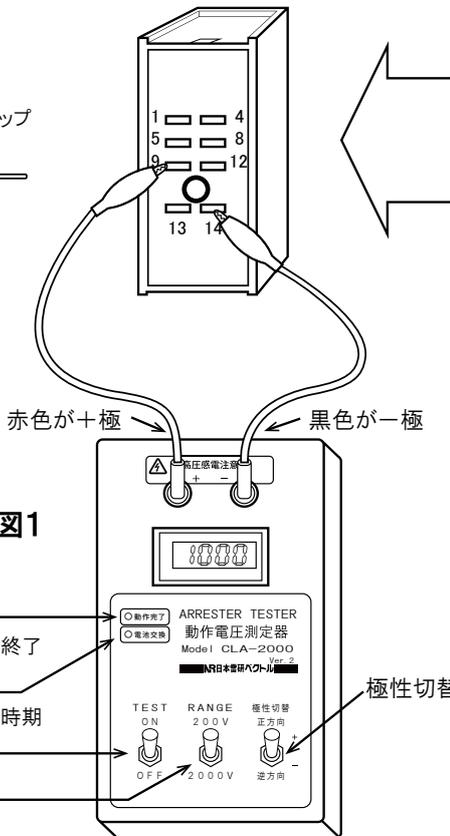
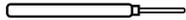
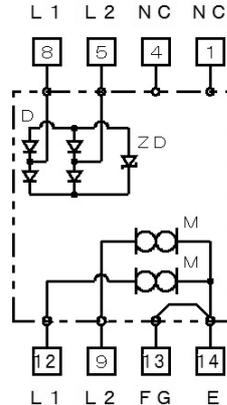


図1

- 動作完了表示
緑色点灯：計測終了
- 電池交換表示
赤色点灯：交換時期
- テストスイッチ
- レンジ切替

極性切替

●本体内部の回路図



D:ダイオード

ZD:ツェナーダイオード

M:モリブデン式吸収素子

●点検前のご注意

- ① 安全のため配線されたソケットより外しておこなってください。
- ② 感電にご注意ください。
TESTスイッチをONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ メーターのサンプリング周期により読み取り誤差があります。
2～3回程度おこなってください。

●チェッカーの動作について

チェッカーCLA-2000のは1mAの電流制限付きです。1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。TESTスイッチをOFFにするまで表示します。

●素子の良否判定

- ① チェッカーCLA-2000を図のように接続してください。
- ② 測定する素子(ZD, MやZ)の動作電圧に合わせてRENJE(レンジ)を切り替えてください。
- ③ TESTスイッチをONに投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外は劣化(不良)と判定します。*1

*1 点検後不具合で新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。
交換までの雷サージ対策となります。

<データ回線用避雷器>

*2 +/-逆もおこなってください。

各素子	測定端子間	端子番号 ⊕ / ⊖	印加電圧 (レンジ)	確認内容 下記の範囲であること	故障モード (通常)
線間 ZD	L1/L2	8/5 *2	200V	17-21Vの範囲であること	短絡
接地間 M1	L1/E	12/14	2000V	350-850Vの範囲であること	短絡
接地間 M2	E/L2	9/14	2000V	350-850Vの範囲であること	短絡